

会 議 録

会議名 (審議会等名)		相模原市美術館基本構想検討委員会(第3回)				
事務局 (担当課)		文化振興課 電話042-769-8202(直通)				
開催日時		平成24年11月14日(水) 18時30分~20時30分				
開催場所		相模原市民ギャラリー 会議室				
出席者	委員	11人(別紙のとおり)				
	その他	0人				
	事務局	4人(文化振興課長、他3人)				
公開の可否		可	不可	一部不可	傍聴者数	0人
公開不可・一部不可の場合は、その理由						
会議次第		1 開会 2 議題 (1) 美術館基本構想の骨子について 3 その他 4 閉会				

審 議 経 過

主な内容は次のとおり。(は委員の発言、 は事務局の発言)

1 開 会

2 文化振興課長あいさつ

3 議 題

(1) これまでの審議内容のまとめ

前回検討委員会の後、検討委員のうち4名で、相模原市の時代的・地理的背景に考慮しながら、資料として基本構想試案を作成した。

《提案委員からの説明》

- 総合美術館として、ゾーンごとに性格と役割を定め、基本理念がそれを束ねる形式とした。一つの館の中で、複数のビジョンが並行して運営されている美術館は無い。これが試案の特色である。
- 試案には、各委員の意見を最大限反映させた。しかし、このままでは、内容が盛り込みすぎであり、実現が困難。美術館に必要な要件を精査し、実現可能な美術館とすべき。
- 美術館開館後の遠い将来において、美術館の機能が不足することとなった場合は、その時点で改めて、分館を整備するなどの検討をすればよい。
- 答申としてまとめる際には、市民が美術館像を理解しやすい、シンプルな内容とする。

以前の審議内容のまとめでは、「まちづくり」が挙げられていたが、今回の試案では「ひとづくり、ものづくり、まちづくり」となっている。どのような視点から「ひとづくり、ものづくり」を盛り込んだのか。

「まちづくり」には、人材を育成し活用する「ひとづくり」が不可欠であり、「ものづくり」は、伝統文化など、その土地のアイデンティティに深く根ざしている。「まちづくり」と「ひとづくり、ものづくり」は一体であり、切り離して考えることはできない。

これまで全国で、数多くの美術館が整備されてきたが、建物などハード面ばかりが重視され、「ひとづくり、ものづくり」などの、ソフト面の充実が不十分だった。ソフト事業について、相模原においては、自然も重要な資産である。自然の豊かな藤野地域で、海外から作家を招き、アーティストインレジデンスを行ったり、アートバスを使ってアウトリーチを行うなど、「ひとづくり、ものづくり」も含めた幅広い活動が可能。さまざまな資産を活用すべき。

美術館が社会の中で人材を育成する場となれば良い。アートラボで行っているエキシビジョンプログラム等の人材育成をこれからもどんどんやるべきだ。

ゾーン毎に適した管理・運営手法を検討するほか、共用できるスペースは共用するなど、運営の効率を図るべき。

事業実施にあたっては、市職員が直接行うほか、大学や作家との連携、ゲストキュレーターやプランナーへの事業委託、市民や学生によるボランティア参加、及びそれらを組み合わせるなど、フレキシブルな組織を検討する。

美術館事業には、専門家だけでなく、美術館事業に参加したい市民等が参加できる仕組みづくりが必要だ。

事業について、幅広い分野のアートを対象とすることとなっている。総合芸術として舞台芸術を対象に含めてはどうか。

パフォーマンスや演劇等の総合芸術を美術館が扱うことも可能だ。ただし、美術館内にシアターだけでなくホールまで備えるのは無理がある。過去、多くの美術館が整備されたが、近年では、展示施設とホールは分けるのが主流だ。

実施する事業については、ある程度の余裕を見ておく必要がある。あまり手を広げすぎると、全てを実施できない。また、基本構想などに実施事業を列挙すると、それ以外の事業が実施困難になり、自由度がなくなる。

試案では、創造発信機能や、交流機能など、新たな機能を盛り込んでいるが、収集保存、調査研究、展示、教育普及など、美術館の基本機能の重要性は変わらない。展示を事業の柱に据えても、創造発信や交流機能を含めた、幅広い活動を行うことは可能である。

運営手法について、指定管理者制度も検討するようであるが、指定管理者の選定のため、5年毎に入札を行うようになれば、学芸員等の専門職員の安定的確保は困難である。長期的な視野で美術館を運営するならば、学芸部門の扱いは慎重にすべきだ。

相模原では、市民が現代のアートに触れる機会が全くない。市民が現代のアートに触れる環境を整えるためには、美術館を1日も早く整備すべきだ。

「基本理念」にある「創造文化の中心施設」という文言が、少し分かりにくい。基本構想の中心となる部分なので、どのように整理するか、検討が必要。

「美術館の性格と役割」について、「施設配置」にある各ゾーンと整合性がとれていない。また、美術館活動が[A]～[E]5本柱で良いのか、ゾーンと合わせて整理する必要がある。

今後は、答申に向けて、項目を整理し、全体の体裁を整えながら、答申案をまとめていくこととする。

第3回相模原市美術館基本構想検討委員会委員出欠席名簿

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	いしわた なお 石渡 尚	横須賀市自然・人文博物館	学芸担当課長	出席
2	いとう としはる 伊藤 俊治	東京藝術大学	教 授	出席
3	いなぎ よしかず 稲木 吉一	女子美術大学	教 授	出席
4	うちやま じゅんこ 内山 淳子	横浜美術館	主任学芸員	出席
5	おさない せいげん 小山内 清弦	文化協会	会長	出席
6	かねこ のりよし 金子 典由	公募委員		出席
7	かみじょう ようこ 上 條 陽子	相模原芸術家協会	会 長	出席
8	きはら ゆうじ 木原 裕二	市立谷口台小学校	校 長	欠席
9	こばやし まさこ 小林 正子	市立大野台中学校	校 長	欠席
10	すずき まさひこ 鈴木 正彦	光と緑の美術館	館 長	出席
11	ふきた ちあき 吹田 千明	藤野ぐるっと陶器市・篠原の里		出席
12	もたい としや 母袋 俊也	東京造形大学	教 授	出席
13	もりわき ひろゆき 森脇 裕之	多摩美術大学	准教授	欠席
14	やまもと みたす 山本 満	(株)さがみはら産業創造センター	専務取締役	欠席
15	よしむら りょうこ 吉村 涼子	公募委員		出席